

愛知県ワクチン接種推進本部 第3回会議 議事概要

日時：2021年3月24日（水）午後1時から午後2時

場所：愛知県本庁舎6階 正庁

1 挨拶

愛知県感染症対策局 榊原技監（本部長）：

愛知県内のワクチン接種の状況であるが、2月中旬から医療従事者向けの先行接種を行っている。3月8日からは県内74の新型コロナウイルス感染症患者受け入れ医療機関で医療従事者等への優先接種が始まっており、4月14日から名古屋市が高齢者への優先接種を開始する予定となっている。

先般、国から5月10日の週までには、県内すべての医療従事者等を接種できる量のワクチンが、また、6月末までには、約190万人の県内すべての高齢者が2回接種できる量のワクチンがそれぞれ供給される旨、示されたところであり、いよいよ本格的なワクチン接種が始まる見込みとなった。

県としても、国や市町村、医療機関、医師会等関係団体と、引き続き緊密に連携を図りながら、ワクチン接種体制の整備を加速させていく。

前回の会議では、「ワクチン輸送の仕組みをきちんと整えていただきたい。」という御意見や、「ディープフリーザーについて、豪雨や地震等で停電があった場合の対策をしっかりと考えておくべきである。」という御意見をいただいた。

ディープフリーザーの停電対策については、中部電力に対して、停電があった場合に優先的に復旧される施設として管理いただくよう、対策を講じたところである。

本日も、本部員の皆様に専門的立場から御意見をいただき、本県のワクチン接種体制の整備に活かしてまいりたい。

2 議題（1）新型コロナワクチン接種スケジュールについて

○事務局から、資料1により説明

また、名古屋市健康福祉局 新型コロナウイルス感染症対策部 木村部長から、名古屋市の接種スケジュールについて説明

大口町健康福祉部 吉田参事：

「資料1」「高齢者向け優先接種のスケジュール」について、「5／3週」、「5／10週以降」に「市町村の需要に応じて」とあるが、「需要に応じて」という

部分は、人口比に応じてということか。それともV—SYSに登録した数に応じてということか。

事務局：

国の通知等によると「需要に応じて」というのは、V—SYSに登録した数に応じてということである。

一宮保健所 澁谷所長：

ワクチン接種について、1回を多くの人に広く行うというのではなく、同じ人への2回接種を優先するスケジュールだと思うが、2回目接種が3週間以上空いてしまうと、効果に問題があるのか。何週間ぐらいであれば遅れても許容できるのか。データがあれば示していただきたい。

事務局：

ファイザーの説明文書には、原則、1回目を打った曜日の3週間後の同じ曜日に打つのを基本として示されており、3週間を過ぎた場合は、できる限りすみやかに接種するとされている。遅れた場合の許容範囲について、特に科学的なエビデンス等は示されていない。

あいち小児保健医療総合センター 山崎副センター長：

エビデンスについては、ファイザーが、3週間での治験の結果しか出していないのでこういう答えになっている。また、市町村ごとの接種率を公表するようなことは避け、安全に着実に接種を進めるということを優先すべきではないか。

愛知県医師会 浅井副会長：

ワクチンが予定どおり供給されなかった場合を考えておくべきである。ワクチンが予定どおりに供給されないのであれば、効果、効率性を重視したワクチンの配分を考えなければならない。名古屋市のように、80歳以上をまず対象とするなど、どこかで線を引くということも必要になるかもしれない。

事務局

ワクチンの量が限られている場合は、優先順位をつけなければならない状況も出てくることは想定される。ワクチンの2回目の接種が遅れることによって、効果が得られないということがあってはならないので、2回目については3週間後にすみやかに接種できるように確保していくことは必要になると考えている。名古屋市のように、地域、年齢等事前に優先度を設定した上で、接種スケ

ジュールを考えていく必要がある。

愛知県病院協会 岩瀬常務理事：

医療従事者への接種について、時期が就職、退職の時期に重なっている。前の医療機関、新しい医療機関どちらで接種するのか、医療機関の間で取り決めをしていないところが多く、それについて配慮をしていただきたい。また、ワクチンを遠くまで取りに行かなければいけないということは、避けていただきたい。

愛知県感染症対策局 榊原技監：

供給量の関係で、各医療機関には難しい対応をしていただいているところがあるが、今後ある程度の量が供給されるようになれば解消できると思われるので御理解いただきたい。

3 議題（2）ワクチンの取扱いについて

○事務局から、資料2により説明

愛知県病院協会 岩瀬常務理事：

以前から指摘してきたところが、今回改善されており、実際の病院間での移送が現実的になると思われる。

4 議題（3）「ワクチンに関する情報発信について」

○事務局から、資料3により説明

新城市 広瀬副市長：

県で作成したチラシについて、市町村によって接種時期等対応が異なることについても記載をしていただきたい。また市町村ごとの接種率を公表するといった、競争になるような状況は極力避けていただきたい。安全・安心・確実に住民の方々にワクチン接種ができるような体制を整えていただきたい。

一宮保健所 澁谷所長：

LINEの情報漏洩の問題があるが、「新型コロナ対策パーソナルサポート」については、どういう扱いになるのか。

事務局：

チラシについては、各市町村において地域事情が異なるので、各市町村と可能な限り、連携をとりながら対応してまいりたい。

L I N Eについては、今後愛知県の方針としては、個人情報を提供したり、収集したりするものについては、活用を見送る一方、新型コロナのアカウントについては、ただちに個人情報を取り扱うものではないので、引き続きL I N Eの活用を進めていく方針を示した。個人情報の管理について徹底したうえで、活用してまいりたいと考えている。

大口町健康福祉部 吉田参事：

大口町では、L I N Eで予約を行うということで進めていたが、問題はないか確認したところ、個人情報は残らないということがはっきりしたので、進めていこうと考えている。

事務局：

L I N Eの予約システムについて、個人情報の管理がきちんと対策されているのであれば、引き続き可能ではないかと思われる。多くの方の個人情報に関することなので、事業者と確認した上で進めて行く必要がある。

愛知県感染症対策局 榊原技監：

国からL I N Eの使用を禁じるような指示等は来ていないか。

事務局：

現時点ではそのような指示は来ていない。

5 議題（4）「第2回 県・市町村新型コロナウイルスワクチン接種連絡協議会の結果概要について」

○事務局から、資料4により説明

名古屋市健康福祉局 新型コロナウイルス感染症対策部 木村部長：

名古屋市は愛知県内で最初に住民接種を始めるので、県内の各市町村から希望があれば、見学を受け付けたいと考えている。

6 議題（5）「ワクチン接種後の副反応等に対応する医療体制について」

○事務局から、資料5により説明

7 その他

大口町健康福祉部 吉田参事：

市町村職員の人件費に関して、国に対して財政支援の要望を重ねて行ってほ

しい。

事務局：

県としても、全国知事会等を通して、国に対して財政支援の要望を重ねて行っているところであるが、さらにしっかりと申し入れてまいりたい。

愛知県医師会 浅井副会長：

河野大臣が、企業等の事業所で接種するといった発言あったが、事業所で接種する場合、こういった体制で行っていくのか。

事務局：

事業所単位での接種については、自治体向け説明会等でも、具体的なスキームについて、提供されていない。ただ、企業の方からそういったニーズがあるということも承知している。国から具体的に示されたら、効率的に円滑に実施できるような方策を検討し、進めていきたい。

愛知県医薬品卸協同組合 中北理事長

資料2で移送方法の緩和について示されているが、具体的にこのような形で行えるのか。冷凍で1対1で配達する方法が一番良いのではないか。流通業としては、トラブルが起きた場合、責任の所在が問題となる。県としてしっかりと考えてほしい。

事務局：

現在は、医療機関同士の、基本型と連携型施設については、1対1での関係であり、一つのバッグで複数の所を開閉しながら移送するということは想定していない。必ず閉めた形で一つのバッグを連携型のところに届けることを基本的に考えている。

8 閉会挨拶

愛知県感染症対策局 榊原技監：

本日いただいたご意見を活かし、皆さまにご協力いただき、県内のワクチン接種体制の確保を、スピーディかつ確実に行ってまいりたい。

今後も、新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組んでいく。

以 上